

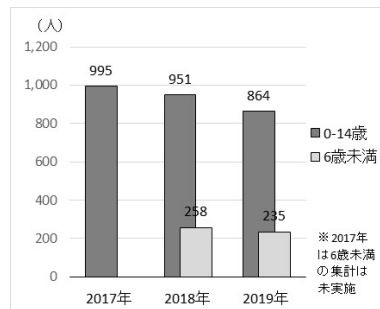
まちづくり計画

昨年来動きをお知らせし、皆様のご意見を頂いてまいりました「まちづくり計画」の作成が完了し、3月末に行政に提出しました。見直しの経過と計画の概要を報告させていただきます。なお、市内すべてのまちづくり協議会の計画書は市のホームページで閲覧可能です。

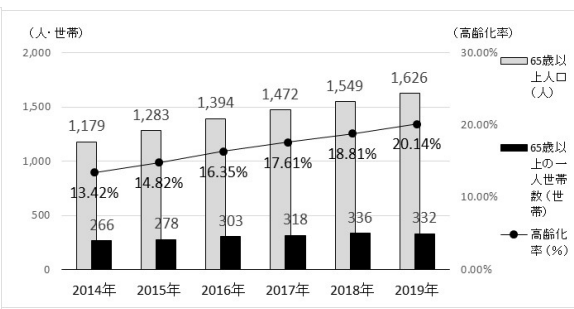
1. 見直しの経過

- コミュニティすみれ役員、自治会や民生児童委員などグループ代表、行政担当を中心としてプロジェクト方式で進めました。月次の運営委員会には状況を報告し皆様のご意見を反映する方式としました。
- 旧まちづくり計画（2005年版）の実施状況の確認
2018年2月に確認会議実施、多くの計画が実施に移されていることがわかりました。確認結果は新計画書に添付しています。
- 現状と課題の把握
人口動態や安全安心にかかわるまちの状況を考えながら、まちの課題把握に努めました。特に人口動態において、人口が減りつつあること、14歳以下の年代が減りつつあること、10年後20年後には超高齢地域になることがわかり、
 - すみれは子育てしやすいので、子育て世代が移り住みたいと思えるまち
 - 高齢になっても、一人暮らしになっても安心して住み続けられるまちを中心的な目標として設定しました。

14歳以下の子どもの数の推移



65歳以上人口・世帯数・高齢化率の推移



65歳以上の人口割合の推定

	2019年 * 1	10年後 * 2	20年後 * 2
すみれが丘 小学校区	20.14%	約39%	50%以上
市全体	27.43%		

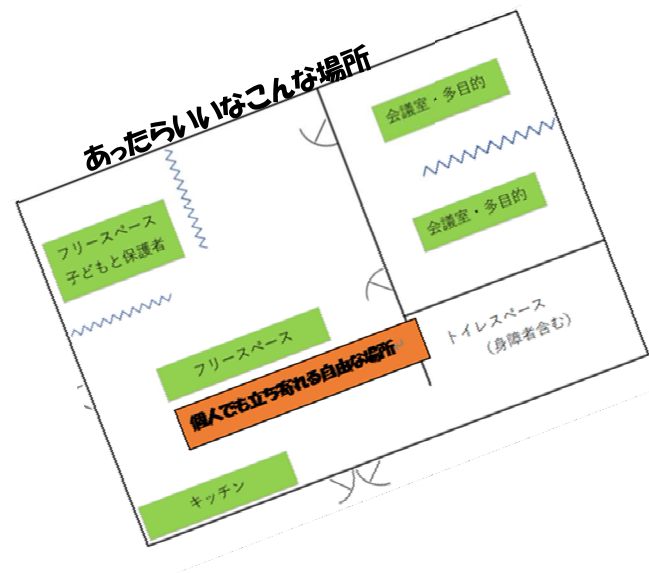
* 1：2019年3月末現在のまち協別集計データ
* 2：過去5年の人口変化が継続したと仮定した場合

(4) アンケート実施（2019年1月）

(2)の内容を考慮しながら案を作成し、アンケートを実施しました。アンケートには自治会役員の方々をはじめとしたまちづくり協議会諸グループのメンバー、小学校、中学校の生徒の皆さん、小中学校PTA有志の方々などにご協力いただきました。アンケート結果については、2019年4月に全戸に配布させていただきました。

(5) 子育て世代や高齢者の皆様からの要望の確認

子育て世代や高齢者の皆様からは特に機会を設けて要望をお聞きしました。



2. 新まちづくり計画（宝塚市第6次総合計画掲載内容）

上記の検討経過のまとめとして、以下の内容を宝塚市第6次総合計画に掲載しています。計画全体は宝塚市のホームページに掲載されていますので閲覧ください。

「コミュニティすみれ」まちづくり計画

人口 8,074人 世帯数 3,260世帯（2019年3月末現在）

【地域の将来像】

- 多世代が諸活動に参加することにより、顔の見える関係が広がっている。
- 地域の諸課題に対し、多くの関係者が解決にむけて協力する仕組みがある。
- 防災の仕組みが整い、災害に強い安心・安全のまちとなっている。
- 公園が整備され、緑化・美化が行き届き、自然と共生するまちとなっている。
- 子どもたちの歓声が響き、すべての世代に活動力があふれている。
- 地域の中央に拠点ができ、既存の拠点とともにコミュニティ活動が盛んになっている。地域にコミュニティ活動を応援する文化がある。

誰もが住みたくなるまち、住み続けたいまちの実現を目指します。そのため具体的な将来像として、上記の6点を掲げます。

【基本目標】

1. 子育てしやすいまち

当地区では14歳以下の住人が減少していますが、将来にわたり活気のあるまちを維持するには、子育て世代が魅力を感じて転入を希望するようなまちづくりが最も重要な視点の一つと考えました。「こんなことがあれば子育てしやすい」について、子育て中の、また子育てを終わったばかりの保護者から、「緊急的な子どもの一時預かり」「子どもが遊べる屋内施設」「子育て世代が集まれる場」などの思いが出されました。これらのニーズについて対応できることについては、少しずつ年次計画策定時に検討し、織り込みながら定着していくこととします。

多くのことからは、コミュニティ施設があれば実現に向けて大いに前進することがわかり、「コミュニティ施設」実現については、基本目標4で対応します。

2. 高齢者や障がい者が安心して暮らせるまち

高齢者や障がい者が地域の活動の輪の中に自然に入っていけるようにすることが、安心して暮らせることに通じると考えています。2014年1月に宝塚市きずなの家「ラ・ビスタよりあい広場」が開設されたことで地域活動の核ができ、高齢者や障がい者の顔の見える関係も広がってきています。

ところが、「ラ・ビスタよりあい広場」は2021年11月に補助金が打ち切られることにより、存続が不可能となる状況があります。まちづくりのためには拠点が必要であり、代替拠点としての「コミュニティ施設」については基本目標4で対応します。

3. 災害に強くみんなで助け合えるまち

防災はまちづくりにおける基本です。本地区は大きく分けてすみれが丘地区と宝塚御殿山北地区で構成されています。防災についてはそれぞれの地区の自治会が対応してきましたが、単独の自治会では対処しきれない課題があるため、まちづくり協議会としての防災組織を作っていきます。

4. 活発なコミュニティ活動を支えるまち

上記1、2の基本目標を達成するにはニーズに見合う拠点、「コミュニティ施設」が必要です。既存の各棟集会所、管理センターなどは「誰でもいつでも」というコミュニティのニーズには対応できません。「誰でもいつでもという日常の活動」を可能にする拠点の取得が当地域の最大の課題です。

コミュニティ活動のためにはその担い手も必須です。近年活動の担い手が高齢化してきており若い層の補充が課題となっていますが、「活動」こそが担い手を生むということもあり、その意味でも「コミュニティ施設」の取得が当地区のまちづくりのための最大の目標と言えます。